

## 試験研究成果普及情報

部門	病 害 虫	対 象	普 及
課題名：ビワたてぼや病の原因となるビワサビダニの発生生態と防除			
〔要約〕ビワの施設栽培で問題となるたてぼや病は、開花期に花房の苞 <sup>ほう</sup> 内で増殖したビワサビダニが幼果を加害して発生する。夏季に施設天井のビニール被覆を除去することで防除できる。また、ビワ開花始期の11月中下旬にピリダベン等の薬剤を散布する。			
キーワード <sup>ト</sup> ビワ、ビワサビダニ、たてぼや病、施設、薬剤防除、被覆			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター暖地園芸研究所環境研究室	
	協力機関	農業総合研究センター暖地園芸研究所果樹研究室 安房農林振興センター	
実施期間	2002年度～2006年度		

### 〔目的及び背景〕

県南地域の施設ビワ栽培において、数年前からビワの果実表面がサビ状に汚れる、たてぼや病が発生して問題となっている。本病はビワサビダニによる食害と灰色かび病菌の複合症状である。これまで西日本産地における知見を参考に防除を行ってきたが、十分な効果が得られなかった。本県の施設ビワ栽培では品種や管理方法などが西日本の産地と異なるため、薬剤の選定・防除時期の決定や施設管理法など、千葉県<sup>チバ</sup>県の施設ビワ栽培に適した防除対策を確立する。

### 〔成果内容〕

- 1 南房総市及び館山市で行った2000～2003年の調査では、22～63%の施設でたてぼや病が発生している（図1）。
- 2 ビワサビダニは11月～12月の開花期に、花房に着生した苞内で増殖し、1月中旬に苞が脱落するまで幼果を加害する。この時期の加害がたてぼや病の原因となる（図2）。
- 3 露地栽培ではビワサビダニの密度が低いため、たてぼや病はほとんど問題にならない。施設栽培では、夏季に天井のビニール被覆を除去することで、ビワサビダニの発生を著しく抑制できる（図3）。
- 4 ビワサビダニに対して、ピリダベン水和剤3,000倍またはマンゼブ水和剤600倍、スピロジクロフェンフロアブル4,000倍の効果が高い。ビワサビダニの密度を低く抑えるために、増殖する前の開花始期（11月中～下旬）にこれらの薬剤を散布する（表1、図4）。

### 〔留意事項〕

- 1 品種「富房」と「瑞穂」は、他の主要品種に比べて苞内のビワサビダニ密度が高く、たてぼや病の発生も多い。
- 2 天井のビニール被覆を除去することで、天敵や降雨に暴露され、ビワサビダニの密度が抑制されると考えられる。
- 3 薬剤の殺虫効果は、開花後、苞内に侵入したビワサビダニに対しては期待できない。果実にビワサビダニが移動し、増殖する前（開花初期）に薬剤を処理する必要がある。

### 〔普及対象地域〕

県南地域の施設ビワ栽培

### 〔行政上の措置〕

防除指針に記載。

### 〔普及状況〕

[成果の概要]

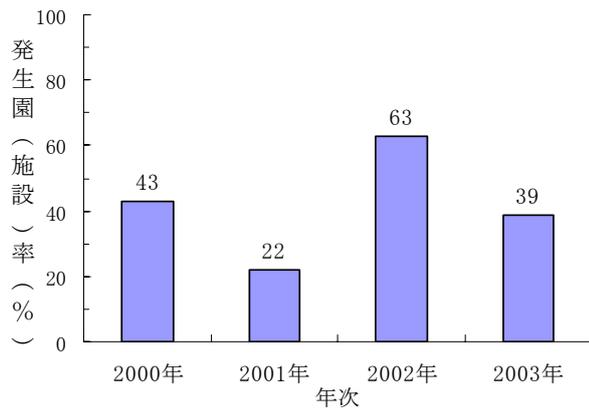


図1 施設栽培ビワにおける年次別のたてぼや病発生状況

注) 南房総市及び館山市の施設約80棟を4月上～中旬の果実肥大期に調査した。

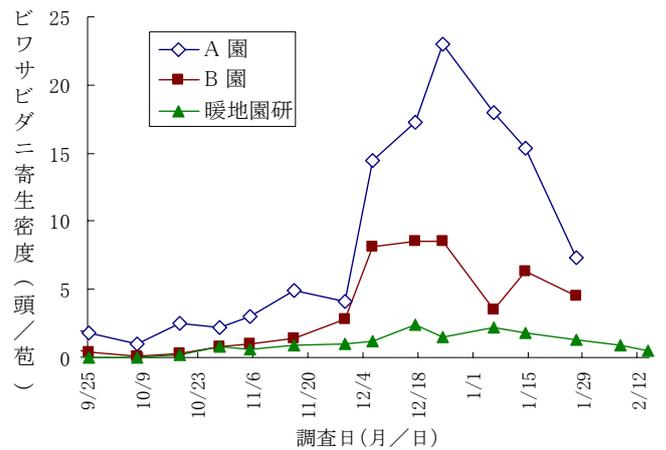


図2 ビワ花房におけるビワサビダニの発生消長

注) 2002年9月～2003年2月、施設栽培、品種:富房

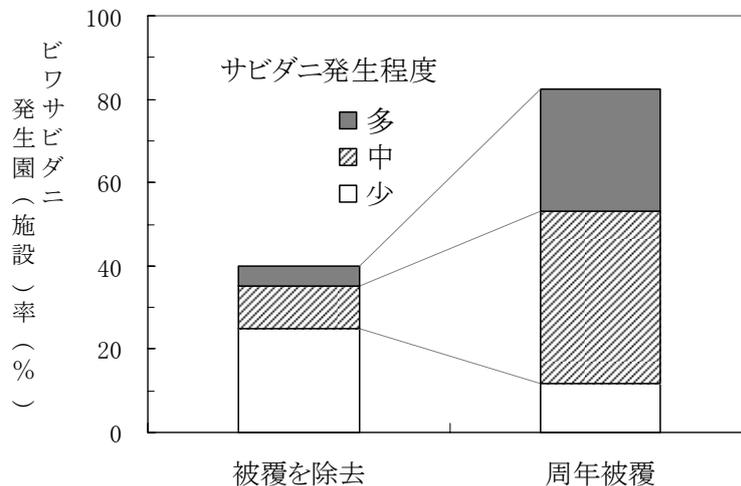


図3 夏季のビニール被覆の除去がビワサビダニの発生に及ぼす影響

注) 2000年の9月下旬～10月上旬に、被覆を除去した施設を20棟、除去しない(周年被覆)施設17棟を調査した。  
 ビワサビダニ発生程度は、苞当たり寄生頭数(d)を、多( $d > 2.0$ )、中( $2.0 \geq d > 0.2$ )、小( $0.2 \geq d > 0$ )、無の4段階で表した。

表1 ビワサビダニに対する各薬剤の防除効果

薬 剤	希釈 倍数	ビワサビダニ密度(頭/苞)	
		処理7日前	処理21日後
		1月11日	2月8日
ピリダベン水和剤	3,000	14.1	0.3 (10.5)
マンゼブ水和剤	600	15.5	0.3 (9.5)
スピロジクロフェンフロアブル	4,000	17.8	0.5 (13.8)
無処理		14.3	2.9 (100)

注 ・薬剤処理:2005年1月18日

・処理後のビワサビダニ密度の( )は補正密度指数

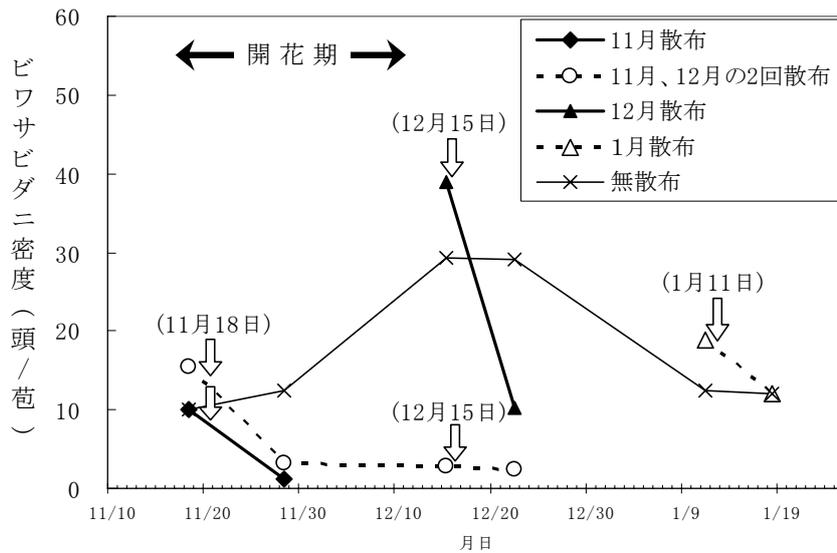


図4 薬剤の各散布時期における散布前後のビワサビダニ密度変化  
 注) 薬剤はマンゼブ水和剤600倍を供試。下向き矢印は()内の月日に薬剤散布を行ったことを示す。

[発表及び関連文献]

- ・ ビワたてぼや病の原因となるビワサビダニの発生生態と防除、千葉農総研研報、第6号、2007年(予定)
- ・ 施設ビワ栽培における新害虫の発生と防除対策、平成17年度試験研究成果発表会資料(果樹部門、情報提供)、2006年
- ・ 施設ビワ栽培に発生する新害虫とその防除対策、千葉の植物防疫、第112号、2005年

[その他]

平成13年度試験研究要望課題(提起機関:安房農業改良普及センター)